様式3

令和 4 年度　学校評価書　（実施段階）

学 校 番 号 51

福岡県立玄洋高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	発展しゆく豊かな郷土の担い手として、「向学」「礼譲」「進取」の精神を体現できる人材を育成する。		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
○ 観点別評価の改善や、ICT機器を活用した玄洋メソッドの推進により、「授業内容がわかりやすくなった」「授業の雰囲気は良い」と感じる生徒が増加した。	○ 学ぶ喜びを感じ、社会で生きるための基礎学力を持つ生徒の育成	開発的・予防的な生徒指導の視点からの授業改善を行い、授業規律の向上に努める。 観点別評価の効果的活用をとおして、生徒の主体的に学ぶ態度の向上並びに基礎学力の定着を図る。 一人1台端末を効果的に活用する授業のあり方を研究し、個々の生徒の学ぶ意欲を最大限に引き出すよう努める。	A
○ リフレッシュタイム、部活動活性化、ボランティア活動の充実等により、教員と生徒の信頼感の向上、生徒の自尊感情の向上を図ることができた。	○ 時間を守り、挨拶を行い、場に応じた服装や振る舞いができる生徒の育成	開発的・予防的な生徒指導の視点からの学級（学年）経営に努め、校内風紀の向上を図る。 教育相談を積極的に行い、個々の生徒の良さを認め、生徒との信頼関係の構築に努める。 部活動の活性化等をとおして、学校全体の生徒の礼節、規律等の生活習慣の向上を図る。	
○ 手厚いキャリア教育の実施により、生徒の多様な進路希望を実現した。特に就職希望者の内定率100%を達成し、公務員合格者も昨年を上回ることができた。	○ 自己有用感・自己肯定感を持ち、地域社会の発展に参画し、貢献しようとする生徒の育成	学校行事や地域貢献活動への参画を積極的に促し、生徒の自己肯定感や社会貢献の志を育成する。 系別に最適化された進路指導計画を学年ごとに計画的・組織的に実施していくことで、生徒全員の希望進路実現を図る。 本校生徒の多様な進路先の受験方法等に関する研究を深め、教科・科目の指導に取り入れることで、生徒全員の希望進路実現を図る（令和4年度は特に公務員試験）。	
○ 学校HPの頻回更新や公式インスタグラムの新規開設など、発信力を強化できた。中学校に加えて学習塾の訪問を幅広く行い、連携を強めることができた。	○ 地域との連携強化及び広報活動の充実	地域の中学校との連携を密に行うことで、受け入れた生徒の個性や特徴に関する理解を深め、生徒が安全安心に高校生活を送れるよう努める。 地域と連携した学校行事を新たに企画し（現行の学校行事を地域連携の視点で見直すことを含め）、「地域とともにある学校」の実現を推進することで、本校に対する地域からの信頼を高める。 本校の手厚いキャリア教育の充実ぶりを、SNS等を用いて中学校や学習塾にアピールし、志願倍率の向上を図る（特に専門学校と連携した公務員受験指導の充実ぶりを前面に出す）。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（年間）			成果と次年度の課題
教務	授業評価・観点別評価を効果的に活用し、授業規律の向上を図る。（チャイム席を守る、黙想・挨拶を行う、私語をしない、居眠りをしない、携帯を使用しない等の指導を行う。）	観点別評価の効果的活用をとおして、生徒の主体的に学ぶ態度の向上及び授業規律の徹底を図る。	A	A	A	通常の授業ではチャイム席が昨年度よりは守られている。 朝のHRに遅刻する生徒は変わらず多い。特に、考査時に遅刻しても焦らない生徒が課題である。SHRから1時間目までが長いことが一因かもしれないため変更も視野に入れて検討していきたい。
		全職員で、授業の遅刻（チャイムの鳴りはじめ）を厳格にし、すべての教科でチャイム席指導、時間を守る指導を徹底する。	A			
		学年巡回指導担当及び生徒指導課と連携し、状況に応じた適切な指導を行い、授業規律を向上させる。また保護者との指導の連携を深める。	A			
	生徒一人一人の学習意欲を高め、基礎学力の向上をはかるため、玄洋メソッド、ICT機器等を積極的に活用した学習活動を行う。また、わかる授業の実現のための授業改善を推進する。	玄洋メソッドを用いたわかる授業と、観点別評価を利用した、指導と評価の一体化をとおして、生徒の学習意欲の向上を図る。	A	A		義務教育段階の学び直しを積極的に進めることができなかった。考査問題に反映させることや学びの基礎診断（OneWeek教材）の活用させることにより、考査の平均点の向上が必要である。
		「わかる」を実現するために、電子黒板やクロムブック等のICT機器の積極的活用した授業改善を学校全体で行っていく。	A			
		学び直しを授業に取り入れ、義務教育段階の内容を含めた基礎的学力の定着指導をとおして、学ぶ喜び、分かる喜びと基礎学力の向上をを図る。	B			
	個別の指導を通して、生徒の生活習慣を確立させる。（遅刻カード、対話による指導、保護者との連携等の）	遅刻カードを用いた対話による個別指導と、保護者との連携を通して、正課の遅刻の減少を図る。また、授業遅刻の減少のため、廊下での呼びかけ指導を行う。	A	B		2学期までの皆勤生徒は89名、出席率は96％である。生徒の遅刻が30を超えた時点で文書で保護者に通知するなどの具体的な対策が必要である。
		定期的に、皆勤生徒の表彰を学年で行い、生徒の出席率に対する意識の向上を図る。また、年間皆勤生徒30人表彰と出席率98％以上を目指す。	B			
情報	ICTの導入・実践を促進し、生徒の学習環境の改善、職員の労働環境の改善を目指す。	ICTを活用した教育実践を調査し、今後の授業に活用するための手段を全職員で検討できるような研修を年間3回以上運営し、職員アンケートにおいて職員のICTへの習熟度 平均80点以上を達成する。	A	A	A	ICT活用指導力に関しては、80．1点であり、目標を達成できている。 「Chromebookを利用させ学習させる」という項目の点数が少し低かったので、今後の研修に生かしていきたい。Chromebookを活用した授業を少なくとも1回は実践した教員の割合は88．4％にとどまった。実数として5人の教員がChromebookの活用を出来ていないので、来年度の課題である。
		ICT活用を含めた授業実践状況を授業アンケートにより調査し、職員全体に還元し、さらなる研鑽の機会を設ける。また、Chromebookを活用する教員の割合は100％を達成する。	B			
		校内LANやグループウェアなどを活用し、校務のICT化による業務改善につなげる。	A			
	各種システム管理および、校内機器・ネットワークについて、整備・修繕し、学習環境の維持を目指す。	一斉メール配信システム、classroom、教師生徒アカウント管理、機器登録・管理を円滑にすすめる。	A	A		1人1台のChromebookの配付に伴う電源キャビネットの充電計画の設定など、円滑に進んだ。機器の整備の迅速な対応が今後の課題である。
		導入機器の故障に対し迅速に対応するため、計画的に備品購入・整備をすすめる。	B			
研修	玄洋メソッドを用いた授業改善をさらに推進し、浸透させていくことを目指す。	年２回実施する学びの基礎診断の結果を分析し、生徒の学力や学習の取り組み方を把握したうえで実態に合った授業改善を図る。	B	B	A	授業アンケートでChrombook等の端末を使用したと答えた生徒が48％という結果となり、教員のChromebook使用頻度が今後の課題である。来年度には生徒全員が日常的に使用できるよう、情報課と連携を取りながら、授業で使用していく取り組みを進めていかなければならない。
		年２回の研究授業週間を通し、Chromebookを使った授業を実施し、玄洋メソッドの充実を図る。	A			
		毎月１回設定した玄洋メソッドデーと公開授業週間を通して、玄洋メソッドを徹底する玄洋高校を地域に発信していく。	B			
	生徒の多様な特性について理解を深めることができる取組みを実施し、思いやりのある生徒の育成を目指す。	スクールカウンセラーによる校内研修を通して、生徒の多様な特性と合理的配慮についての理解を深め、授業改善へとつなげる。	A	A		スクールカウンセラーや訪問相談員との連携はかなり取れているといえる。特別支援教育コーディネーターと生徒情報の共有を確実に行い、支援が必要な生徒の情報を全教員に確実に伝えることが必要である。
		授業アンケートの結果を分析することによって生徒の現状を把握し、授業改善に役立てる。	A			
		図書委員を中心とした図書館活動を活発化させ、本に触れる生徒を増やし、豊かな感性の醸成を目指す。	B			
	心身ともにたくましい生徒を育成するために必要な教員としての資質、能力の向上を目指す。	各分掌や学年と連携して校内研修として生徒情報交換会を実施し、生徒一人一人に必要な配慮や支援についての理解を深める。	A	A		キャリアアップ講座においては各教科それぞれ1名以上が応募し、目標を達成することができた。各研修は滞りなく実施できたが、日程の調整等、連携を密にとる必要がある。
		救急法に関する講習会を校内研修で実施することで、生徒が安心して学校行事や部活動に参加できる環境をつくる。	A			
		専門研修（キャリアアップ講座）及び体育研究所専門研修（短期研修講座）への積極的な受講を促す。	A			
庶　務	目指す生徒像の実現に向けた学校行事が実施できるように、教職員や生徒への連絡・調整の充実と連携の強化を目指す。	庶務課会議を定期的に開催し、業務内容の共有認識を深め、見通しをもって刊行物等の作成を行うことや諸会議・学校行事の準備・実施ができる体制をつくる。	A	A	A	学校行事や諸会議等における要項の提案や準備等については、先生方の協力により円滑に行うことができた。次年度の年度始めについても準備を進めたい。
		教職員の業務分担を明確化することで、入学式や卒業式などの諸行事における準備から当日の運営、片付けまでを円滑に行うことができる体制をつくる。	A			
		各種案内を教職員に周知させる手立てとして、配布や掲示に加えてICTの活用による情報発信の充実を図る。	B			
	地域と連携・協働して行う学校行事を立案・実施することで、本校の魅力を発信する。	PTAとの連携を密に行い、PTA総会をはじめとしたPTA諸活動の充実を図る。	A	B		全ての先生方や同窓会、PTAの尽力により、創立40周記念行事を無事に実施することができた。今後は、50周年に向けて事績の保存作業等を滞りなく進めていきたい。芸術鑑賞については、本年度実施することができなかった。次年度は早めの計画・立案を行いたい。
		芸術文化に触れる機会として本校生徒の実態に合った内容の芸術鑑賞を行い、豊かな心や感性、創造性、コミュニケーション能力を育む。	C			
		創立40周年記念行事を円滑に実施するために、同窓会や教育振興会、PTAとの情報共有を密に行い、記念諸行事を実施する。	B			
広報企画	広報活動を充実させることで、「地域から愛され信頼される学校づくり」を図る。	9月・11月の体験入学や8月の進路相談事業等で、本校の魅力や教育活動を中学生及び保護者にアピールする。	A	A	A	9月にオンデマンド（動画配信）、11月に体験活動（授業・部活動・食堂）で体験入学を実施した。生徒会中心の実施、参加人数の増加（約200名参加）はよかったが、11月実施の時期は検討が必要である。
		本校の教育活動の理解促進や情報交換のために、中学校及び学習塾への訪問を効果的な時期に実施し、連携を深める。	B			
		塾対象の入試説明会や夜の進学相談会等、個別指導の機会を設け、本校の指導方針や教育活動、入試制度を説明する。	A			
	広報物やSNS等を活用することで、本校の取組の「見える化」を図る。	広報誌「玄洋高校News」を年3回発行し、地域や中学校に本校の取組をアピールする。	B	A		広報誌「玄洋高校News」を2部と活性化予算で「公務員指導」と「特色化選抜」のチラシを2部作成し、中学3年生に配布した。ホームページ「玄ニャンの声」及びインスタグラムを更新は今後も継続したい。
		卒業後の具体的な進路実績等を広報誌に掲載することで、卒業生の進路がどのようになっているかを伝える。	A			
		ホームページの「玄ニャンの声」及びインスタグラムを更新し、日々の様子を積極的に発信する。	A			
	今年度の本校の重点的な取組への理解を促進することで、志願倍率の向上を図る。	公務員担当者と連携して、チラシの作成や説明会の実施等を通じて、新たな学校の柱となる「公務員指導」を広報する。	A	B		「進路レポート」と「部活動」の更新は不足していたと思われる。次年度は更新の担当者を増やしたり、具体的な更新計画を立てたりするなど、更新が円滑に行われる工夫をしたい。
		各学年の担当者を決め、ホームページの「進路レポート」を適宜更新し、本校の充実したキャリア教育をアピールする。	B			
		部活動生及び部活動顧問と連携して、ホームページの「部活動」を適宜更新し、部活動への興味・関心を高める。	B			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	特色化選抜入試の影響が良い方向にでているのではないか。授業を見る限り、学校が落ち着いてきているようだ。
A	生徒のPC操作は成長していた。本日の授業視察では、教師の活用が少なかったように思えた。
A	なし
A	なし
A	「公務員なら玄洋」というキャッチフレーズは大変良い。今年度、福岡県警や大阪府警に現役合格することができたことは素晴らしい実績である。今後も期待する。

生徒指導	遅刻・欠席を減らすことによる基本的生活習慣の確立を行う。また、リフレッシュタイムをとおして、教員と生徒の信頼関係を深めていく。	遅刻・欠席の家庭との連絡を密にし、毎日の基本的生活習慣の確立に努める。	A	A	A	PTAの協力のもと、考査期間中に登校指導を実施した。また、2学期から火～金まで職員による登校指導を実施した。リフレッシュタイムは、面談が実施できなかった生徒もおり、より丁寧な立案・計画を行っていく。	A	リフレッシュ面談は、効果も出ているようなので、今後も継続して行って、生徒とより深く信頼関係を築いてほしい。
		保護者（PTA）と協力し、朝の登校指導や生徒間、生徒教職員間の日々の挨拶を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。	A					
		リフレッシュタイムを通して、生徒一人一人が校内に相談できる教員を複数持つことができるようにする。そのために、年間2回は全校生徒のリフレッシュタイムを実施する。	B					
	授業規律の確立を行う。	教務部と連携して、授業や集会時における礼法指導の統一を図り、挨拶の発声を徹底する。	A	A		授業規律や集会時の態度などは昨年に比べて改善できた。また、指導困難な生徒に対しても情報を共有し、多くの教員で一丸となって指導に当たることができた。		
		授業を受けるにあたり、身だしなみを整えることを習慣化させる。	A					
		指導に困難を要する生徒には複数で当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。	A					
	部活動の活性化を図る。	部活動の活性化を図るために、新入生部活動体験入部を実施する。新1年生部活動加入率の60%を目指す。	A	B		新入生の部活動加入率は目標の60％以上を達成し、68％となった。しかし、その後さらに部活動を盛り上げるような取り組みやSNS等での発信は十分であったとは言えない。次年度はこの点に注力して、学校を盛り上げていきたい。		
		挨拶や授業態度等、部活動生としての自覚を促すために、部活動集会を通して呼びかけを行う。	B					
		広報企画課と連携し、各部活動の活動状況を、SNSを通じて、積極的に外部へ発信していく。	B					
保　健	感染症予防を徹底し、生徒が健康・安全に学校生活を送れるようにする。	感染症予防対策（手指消毒・マスク着用等）を啓発して継続させ、自分自身で体調管理ができるようにする。	B	B	B	学校保健委員会を開催し、学校医も含めた場で情報共有、本校課題の協議ができたため、今後の学校保健活動の充実に繋げていきたい。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による臨時休校の学年もあったため、感染症予防対策を徹底させ、校内における更なる感染症の拡大を防ぎたい。	A	なし
		二酸化炭素濃度測定機を活用して授業中の換気を徹底し、安心・安全な学習環境を保つ。	B					
		学校保健委員会で情報共有・意見交換を行い、学校医や地域との連携を強化することで、学校保健活動の充実を図る。	A					
	発達や心に課題がある生徒を支援するため、校内組織や外部機関（SC、支援員、訪問相談員）と更なる連携を図る。	学年や部活動、特別支援教育コーディネーターと連携し、支援（個別の支援計画や合理的配慮を含む）が必要な生徒の把握や、職員内での情報共有に努める。	A	A		SCや訪問相談員、支援員と密に連携し、学年や部活動顧問とも協力しながら支援が必要な生徒の把握と支援の充実を図った。今後は、リフレッシュ面談とも連携し、より組織的に生徒に寄り添った支援ができるよう努めたい。		
		SCや訪問相談員、支援員の活用および連携を図り、生徒に寄り添った支援をできるようにする。	A					
		教育相談委員会（年間１２回）等で情報共有を行い、教育相談機能を充実させ、学校全体で生徒を見守る体制作りを図る。	A					
	「みんなで協力して掃除をする」状況を作り、学校全体で清掃の徹底を図る。	掃除用具の過不足をなくすため、美化委員会と連携した在庫管理を随時実施する。	B	B		年度当初に、掃除用具の在庫確認・補充を実施した。また、当番制清掃を導入して効率の良い清掃を実施でき、学校行事などの前にボランティア清掃を実施することで、特に清掃が必要な時も学校全体を洩れなく清掃することができた。		
		清掃への意識を高めるため、当番制清掃を充実させ、効率の良い清掃活動を図る。	B					
		ボランティア清掃（年間8回以上）の充実、部活動にも協力を仰ぎ、学校全体を洩れなく清掃できるようにする。	A					
進　学	基本的な学習習慣を形成・定着による学力の伸長を図る。また、振り返りを確実に行うことで自らの適性や資質・能力を理解させる。	放課後・長期休業中等の時間を活用して、学力の向上及び学習習慣の定着を目指す。	B	B	B	生徒の進路意識を高めるためには、まずは授業における基礎学力の定着が第一に重要である。教務部と連携しながら、授業・定期テストを重視し、学習意欲を向上させるようにしたい。	A	なし
		基礎力診断テストや実力診断テスト等について、学年・教科で共通理解を図りながら、組織的に取り組む。	B					
		福岡大・西南学院大に合計１０名以上を合格させることができるように努力させる。	C					
	大学や地域と連携した多様なキャリア教育を展開し、コミュニケーション能力や社会人基礎力を高める人材育成に努める。	進路学習や地域貢献活動などをとおして、自己の将来を考えさせる機会を設ける。	A	A		総合的な探究の時間を充実させ、学年を超えて継続的な展開を図る。また、2年次に外部講師による進路説明会などを実施し、進学希望者に対する引き締めを図る。		
		大学別進学説明会等をとおして、上級学校での学びの特長を体験させ、ミスマッチのない進路選択に資する。	A					
	自らの将来像に合致した希望進路先について、必要な知識や学力を身につけ、その進路実現に向けて継続して個別最適化された取組を行う。	担任・生徒・保護者との三者の連携を密にして、生徒の適性や資質・能力に合致した進学の選択を行うように促す。	B	B		3年の1学期中に進路希望を決定し、各生徒が準備すべき事を認識させる。教員間の連携を図り、学校行事等に配慮しつつ計画的に受験対策講座や面接指導・小論文指導を実施する。		
		学校推薦型選抜や総合型選抜等の多面的評価に向けて十分な準備をさせ、面接指導を効果的に行う。	A					
		公務員対策については、外部専門機関との連携を図りながら計画的に実施し、7名以上合格を目指す。	B					
就　職	進路適性検査や総合的な探究の時間における進路セミナー等をとおして、職業を知るとともに自己理解を深め、望ましい職業観を育成する。	発達段階に応じた適性検査を全学年で実施し、その検査結果の振り返りをとおして自己の資質・能力や適性についての理解を深める。	A	A	A	外部講師を活用するなどして、キャリア教育ガイダンスを定期的に実施し1・2年生は働くことの意義について考えさせる学習機会を設定する。また、3年生は就職試験に向けての履歴書書きや面接指導を計画的に行う。	A	なし
		就職の学校推薦の基準について全学年で周知させ、部活動や生徒会活動、学校行事やボランティア活動等に主体的に取り組ませる。	B					
		外部機関との連携を積極的に行い、職業観・勤労観を育成し、就職に必要な社会人基礎力を身に付けさせる。	A					
	インターンシップや社会貢献活動等の体験を通し、主体的に広く深く学び、自己の能力や適性に合致した確かな職業選択を行う契機とする。	生徒が希望する就職先を中心にインターンシップの受け入れ先を確保し、指導や計画的に行う。	B	A		社会貢献活動やインターンシップの事前事後指導を通して、社会人としての立ち居振る舞いやマナーについての学習機会を設定する。また、実際に企業や施設で体験することで働くことのイメージをより明確にもたせる。		
		外部機関と連携した総合的な探究の時間や進路セミナー等をとおして、社会の一員としての自覚を育成する。	A					
		社会貢献活動に複数回参加させることで、時間を守る・身だしなみ・敬語等の社会の一員としての自覚を育成する。	A					
	自己の将来像を展望することで、現在の自己の課題解決に具体的に取り組ませ、進路実現を図る。	就職希望生徒に対し、2年3学期から細やかに面談を行うことで、生徒理解に取り組み、適切な職業選択ができるように促す。	A	B		一人一人の進路実現を図るために、就職課と担任が連携を図り計画的に受験対策を行う。また、ハローワークからの情報を逐次教職員や生徒に提供し、就職試験に合格するために必要な力を確実に身に付けさせる。		
		3年次の進路セミナー等のガイダンスを充実し、2学期までに学校推薦による就職を志望する生徒に100%の合格を達成できるように支援する。	B					
		応募前職場見学や履歴書書き、面接練習等を学年と協力して計画的に行う。また、企業訪問を職員が協力して行うことで、事業所との信頼関係を充実させ、求人の内容を充実させていく。	B					
第1学年	基本的生活習慣の確立と高校生活の充実を図る。	時を守ることの大切さを理解させ、欠席・遅刻を安易にせず、常に早めに行動する習慣を意識づける指導を行う。	B	A	A	出席を1年間呼びかけ続けた結果、出席率は96.47%となった。遅刻の数を減らすために、朝数分遅刻してくる生徒を対象に声掛けを強化したが、効果は限定的であった。生徒指導においては、生徒情報の交換を密に行い、生徒に合わせた指導ができた。	A	なし
		生徒の情報を密に交換して生徒の理解を深め、教師が挨拶など率先垂範を心掛け、生徒の規範意識を向上させる指導を行う。	A					
	学習方法の指導を通じて、知識を得ることの楽しさを引き出す。	学び直しの学習を活用し、中学校段階までの学習内容の定着を図る。	B	B		中学校段階の学びなおしは各教科で実施して一定の成果があった。1学年は1人1台タブレットが配られたため、各教科でformsやkahootを用いて小テストを行った。成果がすぐに見れることもあり、主体的に取り組む生徒が増えた。		
		ICTの効果的な活用や観点別評価を通して、生徒の主体的に学習に取り組む態度を向上させ、学力の向上を図る。	A					
	社会及び自己の未来を見据え、自分に適した進路を選択する能力を育成する。	学年テーマ「挑戦」の体現として学校外での活動にも積極的に参加させ、アカデミックインターンシップや地域貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、進路意識の向上を図る。	A	A		地域貢献活動やアカデミックインターンシップ、総合的な探究を通して、進路に対して真摯に向き合う生徒が増えた。それが部活動加入率68%、生徒会役員22名中16名が1学年であるいう結果として反映されている。		
		進路指導部と連携した総探の時間を活用し、各系統ごとの情報提供と分析を的確に行い、生徒の進路目標を確定させる。	A					
第2学年	挨拶や正しい言葉遣い、振る舞いなど基本的生活習慣の定着を徹底するとともに、学びの姿勢の尊重と学力の向上を図る。	安易な遅刻・欠席をしないよう指導し、チャイム席や集会に臨む態度を身に付けさせ、授業に積極的に参加する態度を育成する。	B	B	A	基本的生活習慣を確立することが、自身の目指す進路の実現に直結することを理解させるため、担任を中心に指導した。大半の生徒は理解し、行動することができたが、まだまだ指導が必要な生徒がいるのも事実である。3年生では、保護者の協力を得ながら指導したい。	A	なし
		普段から始・終業時や校内での元気な挨拶や端正な身だしなみを促し、「礼を正す」機会を多くつくる。	B					
	学校生活において、人権を尊重し連帯感を持って生活できる態度を育成する。	集団生活を送る上で、自他共に大切にする大切さを認識させるため、あらゆる場面で指導する。また、教室等の環境整備を行わせ「場を清め」る指導に努める。	B	A		教室の清掃は概ねできている。体育大会や周年行事等への活動状況は良好であり、学年集会等を通して指導してきた成果がでていたようである。来年度は、最終学年としての意識を持って活動してくれることを期待している。		
		体育大会やクラスマッチ、修学旅行をとおしてコミュニケーション能力を高め、自己肯定感・自己有用感の育成に努める。	A					
	系別に対応した教育計画を立て、生徒自らが自分に適した進路を選択できる能力を育成する。	オープンキャンパスやインターンシップをとおして進路意識の向上を図るとともに、公務員試験に向けての取組を充実させる。	A	A		総探は、分野別に行った結果、大半の生徒が、進路意識を真剣に考え、行動することができたようである。しかし、まだ自分を見つめ直し、行動変革ができない生徒もおり、引き続きの指導が必要である。		
		系別に則した内容を提供できるよう進路指導部と連携を図り、将来の進路を真剣に考え、実現できるよう指導する。	A					
第3学年	最終進路を見据えた学力の向上と、授業に臨む姿勢・態度の育成を図る。	授業内での姿勢や挨拶の徹底、身だしなみの指導を毎時間行い、学習面と生活面における基礎基本の徹底と授業に臨む環境を整える。	B	A	A	担任・副任を中心に学年団による個別指導の徹底により、生徒指導案件も最小限に抑えることができた。全体的に時間に対する意識の改善と正しい敬語の使用については課題が残る。	A	なし
		担任と教科担当、各分掌の連携を密に行い、生徒間の情報共有を徹底することで、多角的に指導が行き届く環境をつくる。	A					
	最上級生としてそれぞれの個性を生かし、学校生活を牽引できる集団を育成する。	学級活動や各種学校行事をとおして最上級生としての意識を持たせ、リーダーシップとフォロワーシップの精神を涵養し、個々の成長と人間性の向上を図る。	A	A		体育大会を通してリーダーシップとフォロワーシップの精神は向上したが、進路決定後には少なからず崩れていく傾向は今年度も課題として残った。ボランティアへの参加は一定数あったが、固定化されていたことが課題として残る。		
		ボランティアなどへの積極的な参加を促すとともに、社会人として通用する礼法や言葉遣いを身に付けさせ、社会人基礎力を育む。	B					
	確定させた進路目標への計画を立て、生徒一人一人の進路実現を図る。	進路指導部と連携した総合的な探究の時間を活用し、生徒の進路を実現させる。	B	B		指定校の枠をすべて埋めることはできなかった。就職にいたっては自己開拓・縁故等、最後まで進路に対する意識が低い生徒が散見された。		
		個別指導や個人面談などの個に応じた指導を通じて、生徒が適切に進路を確定できるように働きかける。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・教務：玄洋メソッドの視点からの授業改善とクロムブックを使った授業改善を図る。
・生徒指導：保護者や地域も含めた組織的な指導の継続により、自転車通学マナーや挨拶・身だしなみ等の向上を図る。
・進路：保護者との連携を密にして、生徒の能力・適性に合った多様な進路の実現を図る。
・ボランティア等含めた地域貢献活動の充実を図る。

評価項目以外のものに関する意見

地域の行事や「福岡マラソン」ボランティア等への参加は、とても良い。今後も継続して行ってほしい。